

## 編集後記

旭川医科大学病院は、昭和51年11月1日、初代、黒田一秀病院長のもと、地域の大きな期待を担って誕生し、爾来30年の歳月が流れた。その間、本院は、道央の中心的な基幹病院として、道北、道東も含めた北海道全域にわたる広範な医療を支えてきた。本大学病院で研鑽を積み、巣立っていった多くの医療人は、各分野で高い評価を受け、全国で幅広く活躍している。

大学病院の使命として、高度な診療技術のほかに、次代を担う医療者を育てる教育、そして将来の医療に役立つ臨床研究が、求められてきた。過去30年の間、それに黙々と応えてきた全職員の努力と実績が、現在の旭川医科大学病院の高い評価につながっているとって過言ではない。

国立大学法人化の波の中で、医療をめぐる環境は、大学病院においても、年々、確実に厳しさを増しつつある。このような社会情勢のもと、高度で安全な医療と患者サービスは、今後、益々、高い水準で求められていくものと思われる。開院30周年を節目として、これからも、全職員の叡智と努力で、多くの先輩たちの残してくれた遺産を損なうことなく、本院が発展していくことを願ってやまない。

最後に、お忙しい中、玉稿をお寄せいただいた歴代病院長はじめ、各部門担当者の皆様に篤く御礼申し上げます、編集後記といたします。

### 旭川医科大学病院30周年記念事業準備委員会

- 委員長 飯塚 一 (副病院長)
- 委員 笹嶋 唯博 (副病院長)
- 委員 上田 順子 (副病院長・看護部長)
- 委員 郷 一知 (病院長補佐)
- 委員 廣川 博之 (経営企画部長)
- 委員 川江 実 (総務部長)
- 委員 齊藤 彰 (病院事務部長)